

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400047		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	亀山市羽若町834-41		
自己評価作成日	平成 24 年 9 月 1 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2490400047-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2490400047-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 9 月 28 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの暮らし方を守りながら、他の利用者、ご家族、地元の関係者との交流を大切に生活を支援する。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の法人(青山里会)は、高齢者や障害者等がいつでもどこでも必要なサービスが受けられる支援ネットワークづくりを進めており、誰もが安心して暮らせる町づくりを目指している。1981年に全国に先駆けての認知症高齢者専用の特養を開設し、それ以来医療と福祉の連携をはかりながら、認知症ケアのノウハウを蓄積し、そのノウハウを活かせる事業所の一つとして3年前に当事業所が開設された。通常のケアは基より認知症ケアに深い見識と豊富な現場経験を積んだ管理者の下、地域社会との繋がりを大切にしながら、利用者一人ひとりの能力を引出すと共に意向や思いに応じ、職員は何時も笑顔で優しく接し、家庭的な雰囲気づくりに心掛け、利用者のペースで安心して暮らせるように支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に沿った職員の目標管理をしている。	ユニット毎に職員皆で話し合い、事業所独自の『否定せず出来ることを優しく見守る介護』その人に応じた介護』を理念に掲げ、その思いは職員にもよく浸透されており、地域との繋がりを念頭に置いたケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所内で企画した行事は、地域住民の方に参加を呼び掛け、地域の行事(盆踊りなど)にも参加させて頂いている。地域の皆さんと一緒に足湯を楽しんでいる。	地域との繋がりを最も大切にし、地域の納涼祭、近くの総合福祉センターで地域の方との足湯、特に近隣の方には、野菜の差し入れや事業所の畑での野菜や花づくりのお手伝いをして頂く等、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族を通じて地域の人々に向けて活かしている。施設見学など受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催し、屈託のない意見をお聞きして実践にも協力を頂いている。	会議は年6回定期的に開催し、事業所からの諸行事の報告と合わせ、前回で出された意見や助言に対しての進捗状況を報告、出席者からは新たに活発な意見や助言があり、出された意見や助言は運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いている。市主催の行事に積極的に参加したい。	市とは運営推進会議の日に、会議のテーマ以外にも情報交換している。事務的な手続きや相談事は近くの広域連合に出向き連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、全職員が良く認識して対応している。玄関の施錠は考慮しているものの今は施錠している。	管理者、職員共に身体拘束の知識はよく認識し、直接の身体拘束はしていないが、玄関については建物の構造上等死角になることから施錠の状態にある。	事故防止のために施錠ありきではなしに、見守り等で施錠せずに安全に過ごせる時間が生み出せないか、職員で話し合い工夫されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待に強い関心と注意を持って日々の業務に努め、更なる勉強の機会を求め。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を良く理解し、必要の見極めが出来、活用できるように学ぶ機会を持ち啓発に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた雰囲気の中で、十分な説明を行い、ご家族の意見、気持、疑問などに十分対応できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、広く意見を求め運営に反映するよう努めている。。	面会時や担当者会議(ケア会議)、定期的に電話で、又、運営推進会議に家族の出席を得て意見や要望は聞き入れている。出された意見、要望はケアの向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、ユニット会議において職員から出された意見や提案は報告し、反映させている。出来ない点に関しても今後の課題としている。	管理者、ユニット毎のリーダーとは、ケアの場や昼の休憩時等何時でも気軽に話が出来る雰囲気にある。出された意見(たこ焼き大会、月見の宴、忘年会等)は実現され、利用者の楽しみとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ職員と個別に面接し、自己の課題、労働上の問題点を確認し意欲的に働く事が出来るように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数、介護力、理解力等に応じ、段階的に又一律に研修を受けている。働きながらのトレーニングは日々取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流になっているが、今後は地域での交流に目を向けて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントは本人より家族様の言葉が反映されがちなので、入所後穏やかに話す中から要望、不安に留意して対処し安心感を持って頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での過ごし方、対応に困っている事をお聞きし、入所する事の不安、心配を和らげる事が出来る様対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずご本人にとってどの支援が適切かを考慮し、ご家族の意向も踏まえ、法人内の他のサービス利用も配慮した対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者としての対応の中で、いつも居る人、私の馴染みの人である様に声掛けし、笑顔で接するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会の際や様々な電話での連絡の際には施設の日常の生活が見えるように健康状態、訴えのある内容等をお伝えしている。逆にご家族からの情報も繰り返し話題にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	好みの和菓子の店への買い物や、散髪店への外出、市内ドライブ等試みている。馴染みの方の訪問もある。	利用者の家族や親戚は勿論、友人・知人の面会時には精一杯のおもてなしをすることで、継続して面会に来て頂けるように心掛けている。又、家族の協力を得ながらドライブを兼ね馴染みの店へ買い物、理美容院へ行く等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の生活時間を大切にしながらも、食事、おやつと一緒に摂り、その後30分は職員を交えて一緒に雑談をしたり、コーヒーを飲んだりして過ごしている。同じユニットとしての輪が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関連施設はもとより他の場合も現状把握出来る体制にある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や、家族からの情報、職員の気づきを日誌に記録し、本人の意向を把握できるように努めている。	利用者との関わる時間を大切に、寄り添い、ゆっくり話を聞きながら思いを聞いている。又、その日の体調や表情、言動からも思いや意向を把握し、利用者本位に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時にご家族や周りの方に在宅での暮らしやサービス利用状況等の聞き取りをして、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を日誌に記録している。その日の会話、対話の内容、移動の様子、排泄の事等を記して申し送る事で、継続した介助の把握がなされる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にはご家族も参加して頂き(1部の家族)部屋担当を中心に話し合っている。他の介護者の見解も求め、入居者の今を把握した介護計画作成に努めている。モニタリングは部屋担当	介護計画は、毎月モニタリングを行い、ユニット毎に管理者、リーダー、家族、利用者毎の担当職員等の関係者による会議でモニタリングの内容と日々の介護記録を確認のうえ計画を見直し、定期的には3ヶ月毎、変化があればその都度作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気付きは個別日誌に記入し、記載されない事項は申し送りノートに細かく記入し職員間の情報共有を密にしている。介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	前例に基づく対応でなく、臨機応変な対応が出来る判断力のある介護士の育成、施設の情報網の確立による迅速な対応と受け皿の充実を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元で暮らしている安心感を大切に地域の催しに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々、本人又は家族の意向によるかかりつけ医を受診されている。家族との定期受診を楽しみにされている。	利用者と家族の希望するかかりつけ医で受診している。受診(通院)は家族の付き添いとしているが、家族の対応が困難な場合には事業所で付き添い受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事柄でも訪問看護師に相談し、応援、支援して頂いている。情報、気付きは全員が周知するまで申し送り、適切な受診が出来るように介護している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域病院とのパイプは出来ている。退院の際は担当者会議をして頂き、看護サマリーを提供して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の一番の不安事項であるので、早い段階での話し合いを心がけている。現状で出来得る対応の説明とチーム支援の活用を含め前向きに取り組んでいる。	事業所としては、重度化や終末期の支援は家族の意向を踏まえて、かかりつけ医、家族等の協力の下で支援する方針であり、職員も同じ想いである。家族とは入居契約時、利用者の体調をみながらその都度話し合い、家族の意向に沿えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数回、利用者の急変で救急車対応の事態を経験しているので、その際全職員に初期対応の手順を説明実践している。勉強会も予定する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の避難訓練を行い、利用者の避難訓練も計画している。近隣の方への呼びかけも検討している。	6月に消防署の指導の下、火災を想定し消火器による初期消火、利用者と職員を安全な場所に避難する訓練を行い、11月に2回目として自然災害想定(竜巻等)の避難訓練を行う計画である。	大地震等の自然災害を想定し、利用者、職員が昼夜を問わず安全に避難できるように、災害時における出勤職員個々の役割を明確にし、初期動作が出来る避難訓練を定期的実施されることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保、言葉使いに重きを置いている。馴染みの言葉使い、冗談の言葉かけ等も飛び交っているが、人格の尊厳が根底にある対応に留意している。	排泄時や、入浴時には羞恥心を害しないように必ずドアを閉める、失禁の際は他の利用者に気づかれないように居室で行う等気を付けている。又、居室の出入り口は全て二重の引き戸でプライバシーに配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の出来る言葉かけはしている。利用者の思いや言葉に、ノーを言わない介護を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしをベースにしながらも、メリハリを持って暮らして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が勝手に衣類を選ぶのではなく、何点かの中から選んでもらったり、お風呂上がりは鏡の前で整容していただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○○さんがむいたジャガイモで～す。等と言いながら肉じゃがを盛り付けてもらったりしている。テーブルを拭いたり、下膳は日課(一部の方)である。	献立、食材の買い出し、調理、盛り付けは、利用者の好みを聞きながら全てユニット毎のアイデアを活かしながら独自で行ない、旬の食材を多く取り入れた家庭料理が提供されている。今後外食等の楽しみも計画されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏はお茶を飲む頻度を多くし、居室にいる時間の長い人にはペットボトルのお茶を渡している。季節の物をバランスよく食べて頂ける献立に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケアをしている。就寝時の入れ歯洗浄を嫌がる方には、入浴時洗浄剤に入れたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に取り組んでいる。オムツ使用者はいない。適切なトイレ介助でパットの使用枚数を減らしている。	排泄チェック表は主に健康チェックを目的に記録している。排泄は常に寄り添うケアから表情やしぐさを観察のうえ、周囲に気づかれないように誘導し、トイレでの自立排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫に重きを置いた便秘予防をしているが何人かは、酸化マグネシウム薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間(午前又午後)はみんな決めていて。順番はあるが無理強いはない。体調管理のもとゆったりと楽しんでもらっている。入浴嫌いの方はいない。	希望があれば毎日入浴も可能であるが、現状は毎日入浴の希望は無く週2~3回で、一日3~4名が時間制限せずのんびり、ゆっくりの入浴となっている。浴槽の入口は洗い場と平面であり、入りやすく配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じた対応をしている。昼寝を欠かさない方、昼は横にならず傾眠が良い方、昼夜を問わず寝る、起きるを繰り返す方等個々に見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各々の服薬支援に知識と用法の理解を持ち、責任を持って介助している。痛みの際の薬、便秘に関する薬は都度症状に乗じて介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	唄うのが好きな方、コーヒーが好きな方、毎日散歩を楽しみにされる方それぞれに出来るだけ対応し、全員で体操、歌唱などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、気候の良い日は中庭に出るのを日課としている。家族との外出(床屋、墓参り等)で掛けてもらっている。又職員と和菓子を馴染みの店まで買いに行ったりしている。	天候と利用者の体調を見ながら事業所周辺と広大な敷地内の散策、玄関先の中庭で外気浴等出来るだけ外気に触れるようにしている。又、家族の協力も得てドライブを兼ねた花見や買い物、墓参り、美容院、かかりつけ医の受診等の外出支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し使う支援を行ったが、今は行っていない。本人の不安のもとになる事が多くあった為である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出のあった場合や、せっかく訪問して頂いたのに眠っていた場合等電話していただいたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用空間になっていると思う。広さの点に問題はありますが、皆仲良く過ごされている。	全ての共用空間で掃除が行届き清潔感がある。デイルームから廊下伝いに各居室が一望でき、各ユニット共居室前の廊下越しに4カ所のトイレが設置され、夜間でも利用者の見守りが容易となっている。居間には季節の花(白色の彼岸花等)が飾られ落ち着ける空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置に考慮し工夫するにも、空間があまりない状態だが、居室で気のあった利用者同士訪問し合ったり、共同空間で交流がとれるように、過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	概ね、本人やご家族の意向を取り入れている。危険を感じるものに関しては家族さんと相談して対処する。	各居室の出入り口は、二重の引き戸となっておりプライバシーに配慮されている。居室内は洗面台、エアコンは事業所で設置しているが、その他カーテン、ベッド等は全て利用者と家族の好みと使い慣れた物が持ち込まれ、その人らしく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は明るく、直線の移動設計で迷うことはない。入口は二重ドアでプライバシーも保たれる。外の景観も良く部屋での生活も快適だと思われる。		